

研究主題

人権尊重の精神をより一層高めるための指導の改善

—一人権教育の視点を明確にした進路指導の工夫—

目次

研究の概要	24
I 研究のねらいと方法	
1 研究のねらい	25
2 研究の方法	25
II 人権教育の視点を明確にした進路指導	
1 進路指導の充実を図るための人権教育の3つの視点	26
2 発達段階との関連	26
3 人権教育の視点を明確にした進路指導の年間指導計画作成の考え方	27
4 人権教育の視点を明確にした進路指導の年間指導計画（例）	28
III 指導事例	
1 人権教育の視点を明確にした進路指導の指導案作成の手引き	
(1) 指導案作成上の留意点	30
(2) 指導案作成の実際	31
2 指導事例①（小学校・道徳）	32
3 指導事例②（小学校・総合的な学習の時間）	35
4 指導事例③（中学校・総合的な学習の時間）	40
IV まとめ	
1 調査結果より	45
2 提案事項	46

＜研究の成果と活用＞

1 人権教育の視点を明確にした進路指導の具体化

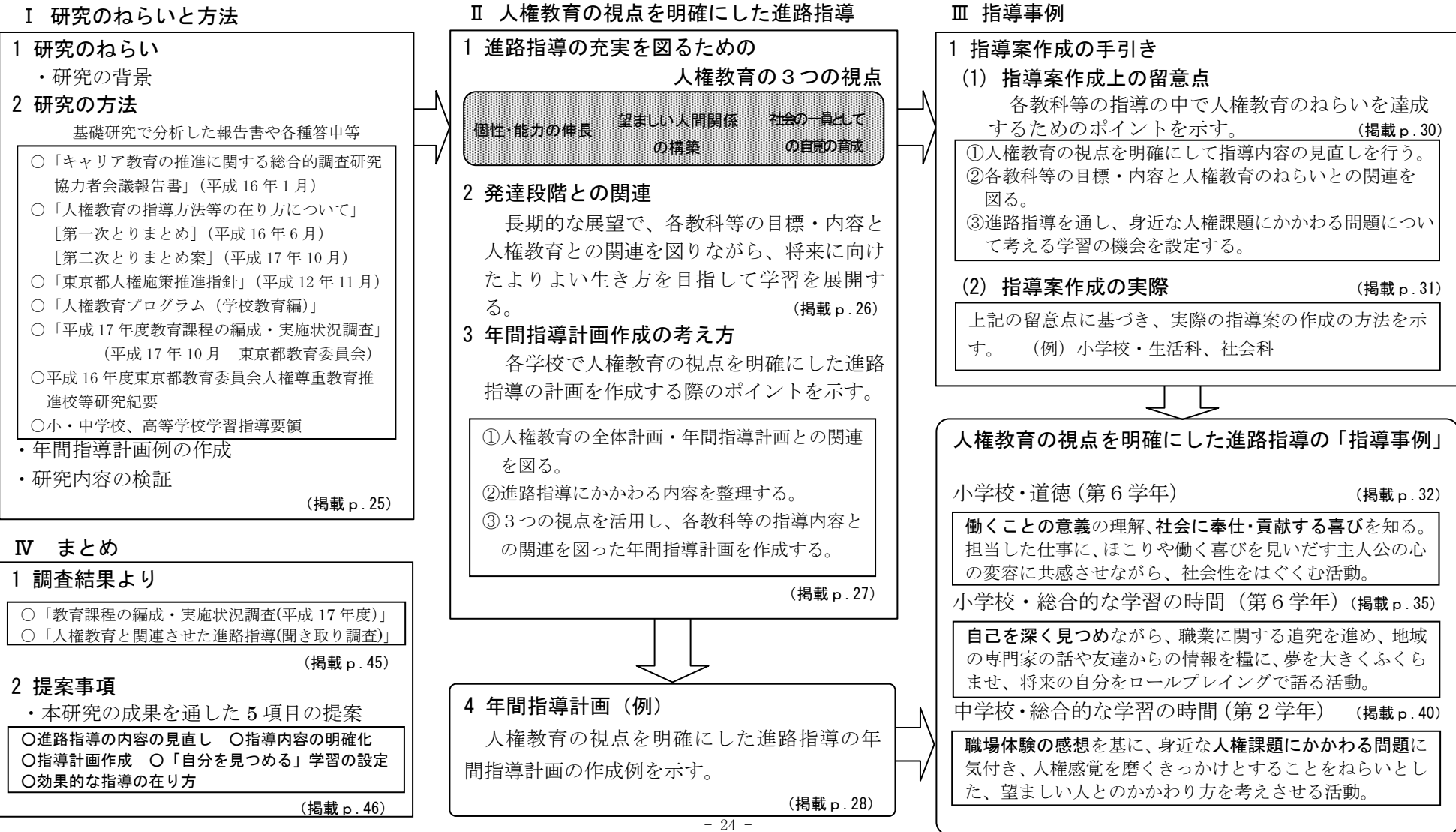
- 進路指導の充実を図り、人権教育を推進するために必要な視点が明確になる。
- 「個性・能力の伸長」「望ましい人間関係の構築」「社会の一員としての自覚の育成」の3つの視点により、各教科等における進路指導の内容の具体化を図ることができる。

2 進路指導に関する年間指導計画の作成及び指導事例の開発

- 人権教育の視点を明確にした進路指導の指導計画等の作成の方法が分かる。
- 小学校6年間及び中学校、高等学校段階を見通した年間指導計画例を示した。これにより、各学校の進路指導の充実を図ることができる。
- 人権教育の視点を明確にした進路指導の指導事例により、具体的な授業展開の方法が分かる。

研究のねらい ○人権教育の視点を明確にした進路指導の工夫（人間としての生き方や社会の一員としての自覚を促す指導事例等の開発）

人権教育推進上の課題 ○**現状** 児童・生徒に関する人権上の様々な問題、学習意欲や就業意識の低下、「ニート」や「社会的引きこもり」の増加 等
○**背景** 指導方法の問題、教職員の人権教育の推進に関する認識の不十分さの問題 等



I 研究のねらいと方法

1 研究のねらい

平成 15 年 4 月の内閣府による「人間力戦略研究会報告書」では、我が国の児童・生徒の学習意欲や就業意識の低下が指摘されている。また、平成 16 年 4 月に東京都教育委員会が策定した「東京都教育ビジョン」では、将来への夢や希望を描けない子どもが増加しており、社会参画の意識が希薄で、社会人として自立できない若者が多くなっていることが挙げられている。現在、64 万人（注 1）といわれる「ニート」と呼ばれる若年無業者の存在や「社会的引きこもり」の増加等が社会全体の大きな問題となっている。

こうした背景を踏まえ、各学校において進路指導の充実を図る必要がある。進路指導において、自己の生き方を考えさせ、適切な勤労観・職業観を身に付けさせることは、人権教育の基本的なねらいの一つでもある。こうした進路指導の実施に当たっては、人間としての生き方や社会の一員としての自覚を促す指導事例を開発し、児童・生徒が生活に生きがいを見だし、将来に向かって意欲をもって自己実現を図ることができるようにするとともに、児童・生徒自身の人権尊重の精神を高めるなどの工夫が必要である。

以上の点を踏まえ、「人権尊重の精神をより一層高めるための指導の改善」を目指し、「人権教育の視点を明確にした進路指導の工夫」についての研究を行うこととした。

（注1）厚生労働省「労働経済白書」（平成 17 年版）より

2 研究の方法

東京都教育委員会が作成している「人権教育プログラム（学校教育編）」（注 2）では、「すべての児童・生徒等が将来に向かって、意欲をもって自己実現を図るために、一人一人の児童・生徒等の個性・能力を伸ばし、自己の適性や進路希望を生かすよう進路指導を行い、進路の保障を図るよう努める。」としている。

（注 2） p. 8 「2 学校における人権教育を推進するための基本的な考え方」（平成 17 年 3 月版）

本研究ではまず、進路指導の基本的な考え方、進路指導と人権教育との関連及び進路指導を実施する際に必要となる人権教育の視点等を明らかにするために、以下に挙げる報告書や各種答申等の分析を行った。

- 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成 16 年 1 月、文部科学省）
- 「人権教育の指導方法等の在り方について（第一次とりまとめ）」（平成 16 年 6 月、文部科学省）
- 「人権教育の指導方法等の在り方について（第二次とりまとめ案）」（平成 17 年 10 月、文部科学省）
- 「東京都人権施策推進指針」（平成 12 年 11 月、東京都）
- 「人権教育プログラム（学校教育編）」（平成 17 年 3 月、東京都教育委員会）
- 「平成 17 年度 教育課程の編成・実施状況調査」（平成 17 年 10 月、東京都教育委員会）
- その他 平成 16 年度東京都人権尊重教育推進校等研究紀要 学習指導要領 等

次に、年間指導計画例を作成するとともに実際の授業を通して、研究内容の検証を行った。その結果、人権教育の視点を明確にした進路指導の有効性や各学校において実施する意義について確認することができた。

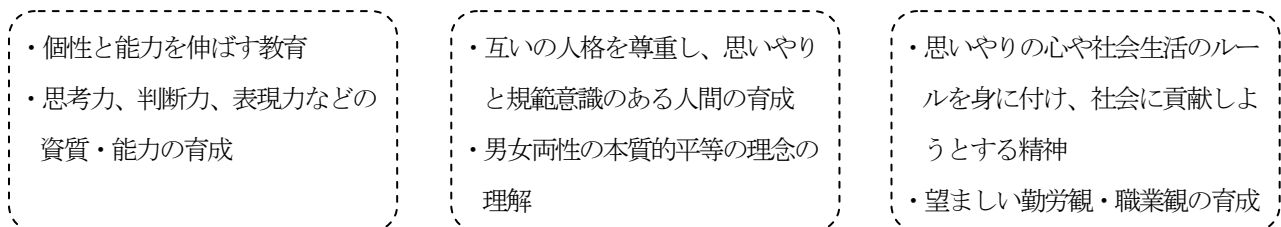
あわせて本研究では、進路指導に関連する教員の聞き取り調査を行った。結果については、第 IV 章に参考資料として掲載した。

II 人権教育の視点を明確にした進路指導

1 進路指導の充実を図るための人権教育の3つの視点

本研究では、進路指導と人権教育の関連を明確にするため、まず、国が策定した「人権教育・啓発に関する基本計画」や「東京都人権施策推進指針」を踏まえ、東京都教育委員会が作成した「人権教育プログラム（学校教育編）」（平成17年3月）の記述内容の分析を行った。

児童・生徒が意欲をもって自己実現を図り、個性・能力を伸ばし、自己の適性や希望を生かす進路指導を行うには、例えば、次のような人権教育の内容を踏まえる必要があると考える。



学習指導要領の進路指導に関する内容・記述は、各教科、道徳（小学校・中学校）、特別活動、総合的な学習の時間において見られ、「働くことの大切さ」（小、道徳）や「望ましい職業観・勤労観の形成（確立）」（中・高、特別活動）、「ボランティア活動などの社会体験（中略）、ものづくりや生産活動」（小・中、総合的な学習の時間）など、校種及び教科等に応じた指導内容の工夫が求められている。

以上の点を踏まえ、進路指導と人権教育の関連について考えた場合、両者を結ぶ要素として、次の3つの視点を挙げることができる。

【進路指導の充実を図るための人権教育の3つの視点】



これら3つの視点で各教科等の目標や内容をとらえ直すことで、改めて進路指導にかかわる内容を整理することができるとともに、指導の重点化を図ることができると思う。

2 発達段階との関連

進路指導は、児童・生徒の生涯にわたる生き方に関する教育である。

各学校における進路指導の内容については、進学や就職など卒業後の進路ばかりでなく、児童・生徒の生き方や生涯にわたって身に付けるべき資質・能力などを含むものとしてとらえるべきである。こうした人権教育の視点を明確にした進路指導の考え方は、最近、必要性が指摘されている「キャリア教育」においてもぜひとも必要なものである。

平成17年10月、文部科学省による「人権教育の指導方法等の在り方について（第二次とりまとめ案）」が示された。

人権教育の視点を明確にした進路指導を推進するためには、次ページの表の記述内容を参考にしながら、児童・生徒の発達段階を踏まえた指導の工夫が必要である。

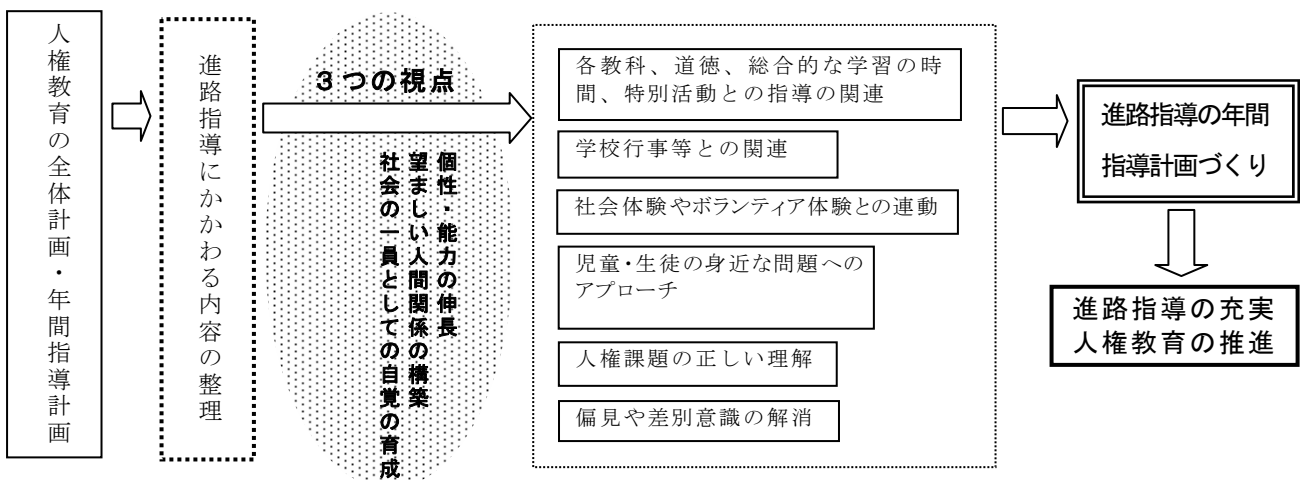
【発達段階を踏まえて進路指導を通して児童・生徒に育てたい能力や態度】

	人権教育の指導方法等の在り方について（第二次とりまとめ案）より		進路指導を通して児童・生徒に育てたい能力や態度（一部）（注2）
	主な発達の特性	人権教育の指導方法	
小学校前期	<ul style="list-style-type: none"> 想像力、言葉による理解力、認識力が育ってくる。 抽象的な思考もできるようになるが、まだ幼児期の特性も残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験に基づく「気付き」から想像力や認識力に訴えて深い理解に導くよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。 自分の生活を支えている人に感謝する。
小学校後期	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の数も増え、概念を理解し、抽象的な思考が深まっていく。 認識力、分析力、批判力等も身に付くようになり、自意識も次第に強くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権の意義や重要性を知的に理解させる。 知的理解が抽象的なものに留まらないよう、体験的学習を併用して、具体的人権問題を直感的に「おかしい」と認知する感性の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだり体験したりしたことと生活や職業との関連を考える。 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 内省的傾向が顕著になり自意識も一層強まる。 自立した主体的な個であるという自意識と自分の実態との乖離に悩む時期。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を育て、多様な生の在り方や様々な価値観をもって生きる他者の存在を、知的にも感覚的にも受容できるような学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する、 体験等を通して勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 生活空間が飛躍的に広がり、情報や生活体験が拡充する。 知的、情緒的に人間や社会に対する認識が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場と機会をとらえ、人間としての生き方を真剣に考えさせ、キャリア教育等と連動させ、積極的に人権教育に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。

(注2)国立教育政策研究所「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」(平成14年11月)より抜粋

3 人権教育の視点を明確にした進路指導の年間指導計画作成の考え方

各学校で進路指導の充実を図るためには、人権教育の視点を明確にした進路指導の内容や方法等について教職員間の共通理解を図るとともに、意図的・計画的に学習を進める必要がある。指導計画作成の考え方は以下のとおりである。

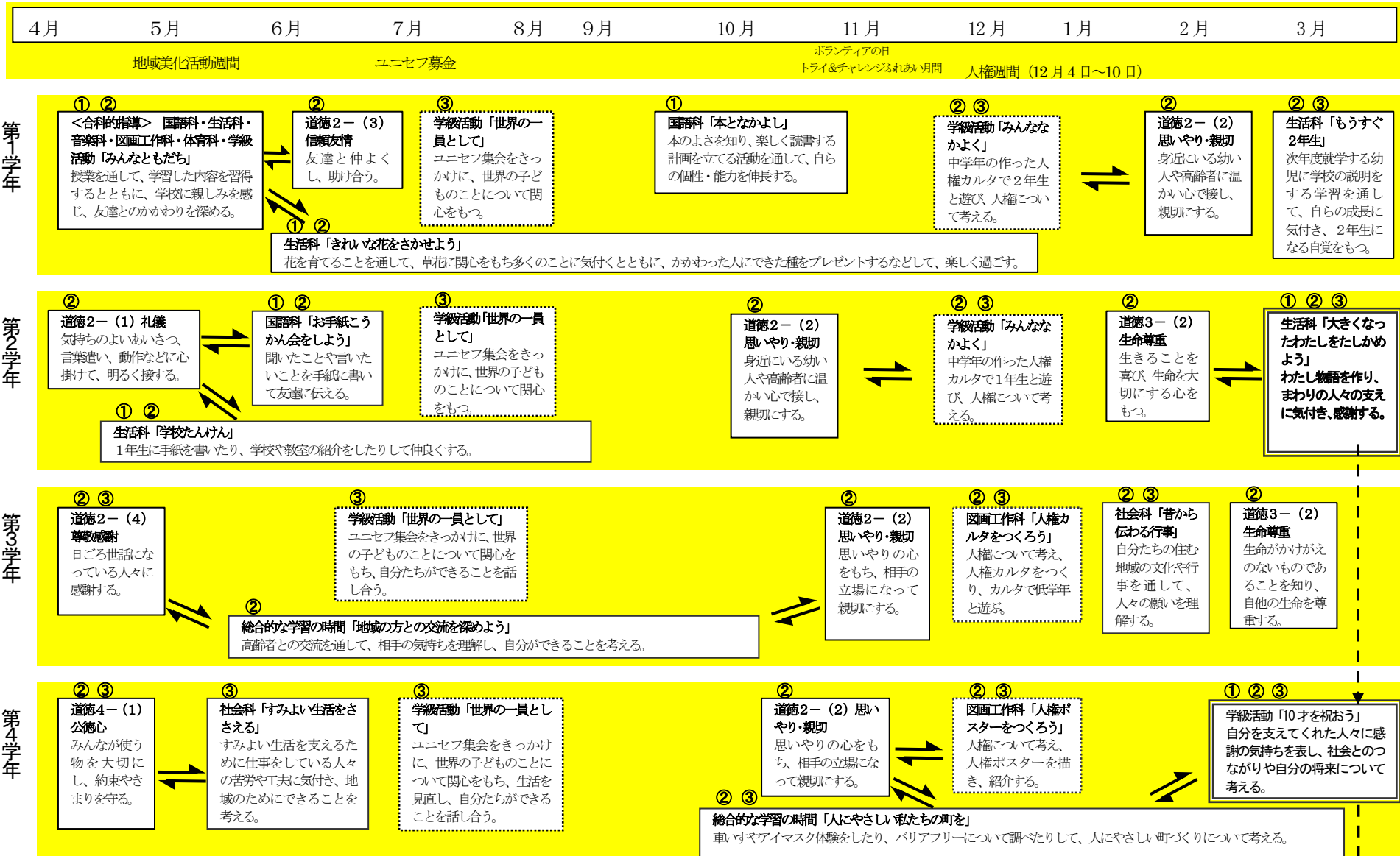


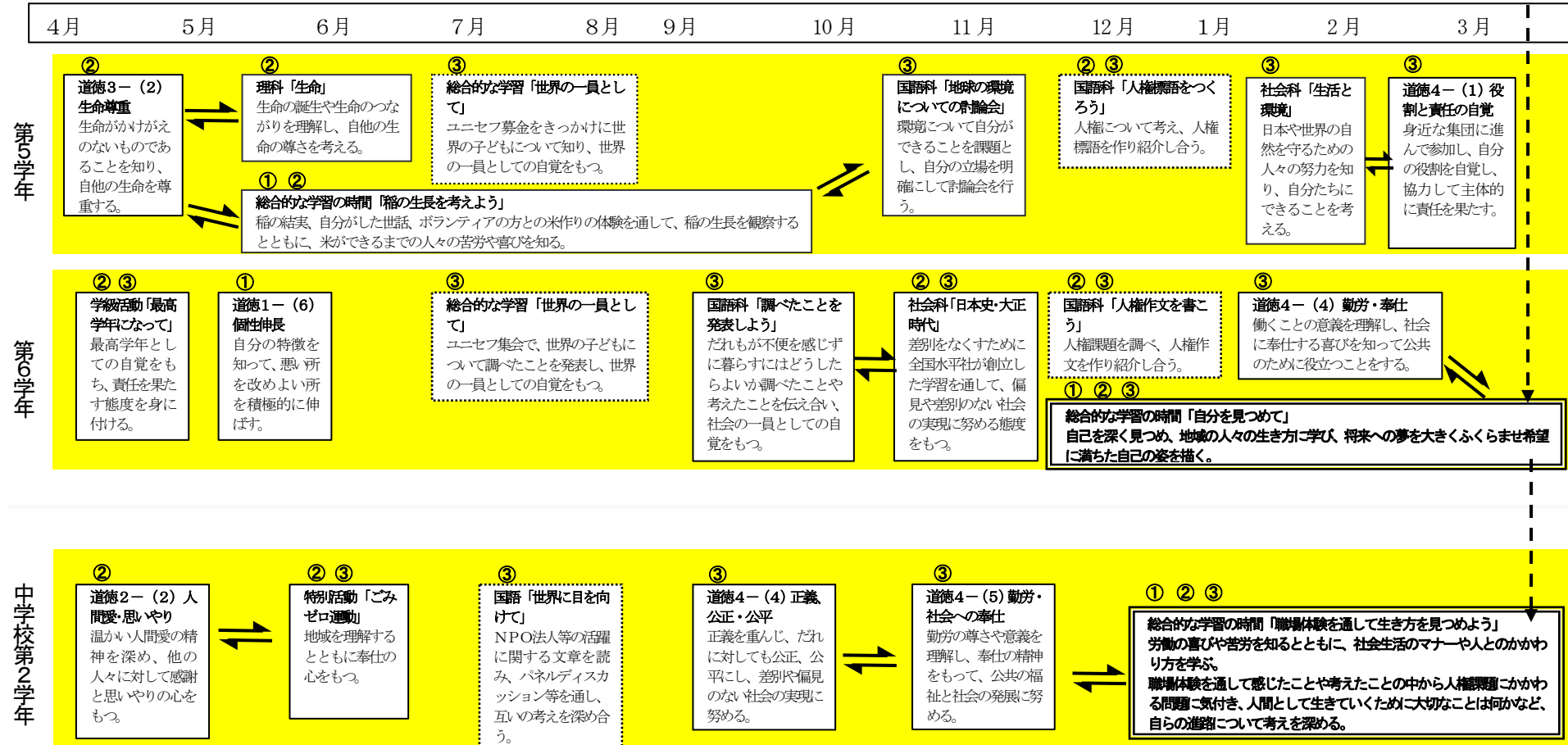
人権教育の全体計画・年間指導計画の作成については、「人権教育プログラム（学校教育編）」（平成17年3月）の12ページが参考となる。上記の3つの視点に基づいて、各教科等の目標や内容を見直すことで、各学校の指導上の課題や重点が明らかになる。

4 人権教育の視点を明確にした進路指導の年間指導計画(例)

p.27の考え方にに基づき、小学校と中学校第2学年の年間指導計画の作成例を以下に示す。

表中の①～③の数字は、それぞれ人権教育の3つの視点である ①個性・能力の伸長 ②望ましい人間関係の構築 ③社会の一員としての自覚の育成 との関連を参考として示したものである。





※ [] 行事等とかかわりの深い学習 ⇔ 関連的な指導 [] 成長段階に応じて「自分を見つめる」機会として設定

※ 「自分を見つめる」学習を意図的に設定することで、自分自身に対する認識を深め「自分は今何をするべきなのか」を考えられるようになる。
さらに、人とのかかわりの大切さについて気付くことになり、広い視野に立って社会を考えることにつながる。(詳細については、本紀要 p.39 参照)

高等学校においては、以下の実践例を参考に年間指導計画を立案できると考える。

- | | | |
|--------------|------------------------------|-------------------------------|
| (参考) ○特別活動 | 「身近な差別に気づき、人権意識を高めるホームルーム活動」 | 人権教育プログラム (平成 15 年 3 月) p. 50 |
| ○総合的な学習の時間 | 「高齢社会のなかで生きる自分」 | 人権教育プログラム (平成 16 年 3 月) p. 38 |
| ○公民科 (政治・経済) | 「平等な社会をめざして」 | 人権教育プログラム (平成 16 年 3 月) p. 50 |
| ○家庭科 (家庭総合) | 「子どもの発達と保育・福祉」 | 人権教育プログラム (平成 17 年 3 月) p. 34 |

Ⅲ 指導事例

1 人権教育の視点を明確にした指導案作成の手引き

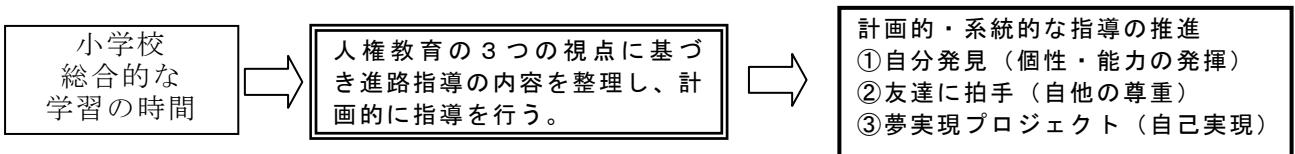
(1) 指導案作成上の留意点

① 人権教育の視点を明確にして指導内容の見直しを行う。

進路指導の充実を図るためには、まず、人権教育の3つの視点（p.26）に基づき、進路指導にかかわる内容の整理を行う必要がある。学習や行事、体験活動等の各場面をとらえながら、進路指導の年間指導計画を作成し、それに基づいて計画的・系統的に指導を行う。

例えば、総合的な学習の時間で、将来の夢や希望、生き方について考える学習活動を進路指導の充実及び人権教育の推進の観点から実施することができる。

<指導事例より：p.35>

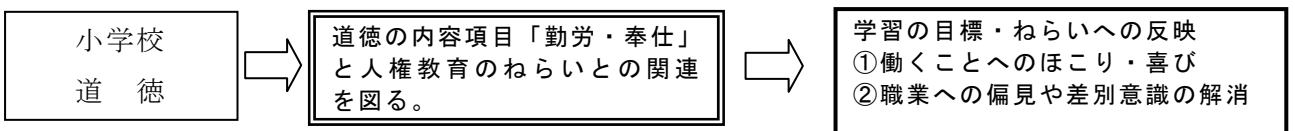


② 各教科等の目標・内容と人権教育のねらいとの関連を図る。

人権教育の視点を明確にした進路指導を進めるには、各教科等における目標や内容と人権教育のねらいとの関連を図り、指導内容を重点化することが大切である。

例えば、小学校・道徳の時間で「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする」学習がある。これを3つの視点と関連させることで、望ましい勤労観・職業観の育成や職業への偏見や差別意識の解消などにつなげることができる。

<指導事例より：p.32>

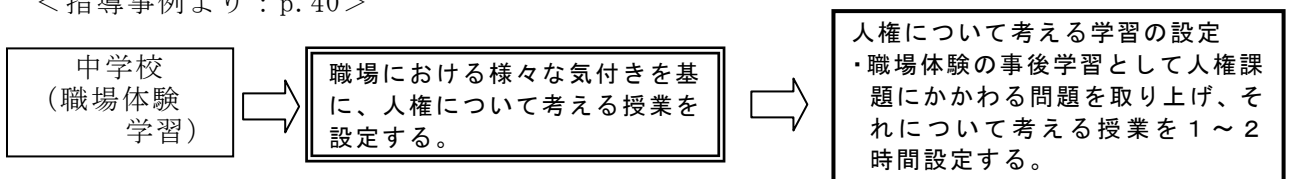


③ 進路指導を通し、身近な人権課題にかかわる問題について考える学習の機会を設定する。

人権教育の推進を効果的に行うには、身近な人権課題にかかわる問題について考える機会を、進路に関する学習の中で具体的に設定することが重要である。

例えば、多くの中学校で行われている職場体験を、単に体験を通して学ぶ機会に留めることなく、人権について考える学習の機会として設定する。これにより、日ごろあまり意識していない偏見や差別意識について気付き、考え、これを解消する態度を育成する具体的な学習の機会とすることができる。

<指導事例より：p.40>



(2) 指導案作成の実際

前項で示した留意点に基づき、指導案を作成する。その際、3つの視点に基づくことで、いずれの教科等においても人権教育の視点を明確にした進路指導の工夫が可能となる。

例えば、小学校の生活科及び社会科の授業においては、以下のように指導案を作成する。

① 小学校・生活科

ア 単元名 「もっとしりたいな 町のこと」(第2学年)

イ 単元の目標及び人権教育のねらい(一部)

- ・自然の中に浸り、様々な自然物を利用しながら友達と仲良く遊びを工夫して楽しむことができる。
- ・自分のよさとともに他の人の大切さを認めることができるようになる。

各教科等の目標・内容と人権教育のねらいとの関連を図る。

ウ 学習指導計画

時	学習内容	人権教育の3つの視点により指導内容を見直し、重点化を図る	指導の手だて
1	秋の実や落ち葉などを見付ける。	3つの視点 個性・能力の伸長 望ましい人間関係の構築 社会の一員としての自覚の育成 ↓ ※学年や発達段階に応じて、内容の具体化を図り、進路指導に関する学習を計画的に実施する。	・友達と一緒に探す活動を行い助け合って活動できるようにする。 ・目的や対象を明確にして製作する意欲を喚起する。
2	秋の物を使って、お世話になった人にプレゼントを作る計画を立てる。		・作る物が同じ児童でグループをつくって活動し、教え合いが生まれるようにする。
3	秋の物を使って、飾る物や身に付ける物を作る。		・互いの作品のよさを発見する活動を通じて、自他のよさを認められるようにする。
4	作った物を発表する。		・目的を明確にし、協力して一つの物を製作することで、望ましい人間関係を築く基礎を養う。
5	みんなで一つの物を作り、福祉施設に贈る。		

② 小学校・社会科

ア 単元名 「平和で豊かな暮らしを目指して」(第6学年)

イ 単元の目標及び人権教育のねらい(一部)

- ・我が国が抱えている課題について考えることによって、社会の一員としての自覚を高め、よりよい社会を作ろうとする意欲をもつ。

各教科等の目標・内容と人権教育のねらいとの関連を図る。

ウ 学習指導計画

次	学習内容	人権教育の3つの視点により指導内容を見直し、重点化を図る	指導の手だて
I	終戦直後の生活の様子について調べたり、地域の方から話を聞く。	3つの視点 個性・能力の伸長 望ましい人間関係の構築 社会の一員としての自覚の育成 ↓ ※教科の学習内容に加え、進路指導に関連した内容として取り扱う。	・地域の方から戦後の話をうかがい、当時の人々の努力や苦勞への理解を促す。
II	オリンピックに向けた生活の様子や社会の様子について話を聞いたり、調べたりする。		・友達の作品を見て調べ学習を行い、自分の作品のよさとともに、友達の作品のよさを知る。
III	戦後の日本の発展を振り返り、現在の日本の抱える課題について考える。		・我が国が抱える課題を理解させるため写真やビデオを提示し、社会の一員としての役割や自覚について考えさせる。

また、「進路指導を通し、身近な人権課題にかかわる問題について考える学習の機会を設定する」ことが大切であるが、具体例については、次ページ以降の指導事例において示す。

2 指導事例¹

道徳 小学校第6学年	働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをしようとする態度を養う学習。
---------------	---

(1) 主題名 「働くということ」 高学年 4－(4) 勤労・奉仕

(2) 本時の目標及び人権教育のねらい

人権教育・進路指導との関連

キーワード ①働くことへのほこりや喜び

「勤労・奉仕」の道徳の内容項目は、望ましい勤労観・職業観となる働くことへのほこりや喜びをはぐくむ進路指導と密接な関連がある。担当した仕事にがんばりだす主人公の心の変容に共感させ、「ほこりや喜び」といった働く意義を考えさせるようにする。

人権教育の視点として、道徳の時間等を通して、発達段階に沿って望ましい勤労観・職業観を育成していきたいと考える。進路指導は、長期的な展望で学習相互の関連を図りながら、将来に向けてよりよい生き方を目指す学習活動を展開するものである。職業はそれぞれ大切な役割があり、人々の生活を支え、社会につながる尊いものであることを指導する。

(3) 指導計画（1時間扱い）

道徳

資料名「ぼくの仕事は便所そうじ」（作）西山登志雄
4－(4) 勤労・奉仕
・働く喜びを知った主人公に共感する。
・社会にはいろいろな仕事があり、それぞれに尊い役割があることを知る。

教科・領域等との関連例

(社会)
社会科見学
職場見学を通し、働くことの大切さや工夫を知る。

関連する内容項目

1－(2) 希望・勇気
・目標を達成するために、困難にくじけることなく、夢や希望をもって粘り強くやり通そうとする態度を養う。

(総合的な学習の時間)
『自分を見つめて』
自分のしてみたい仕事を調べ、ゲストティーチャーから学ぶ。

<指導の工夫>

- ① 導入では、将来の夢である「してみたい仕事」を事前に調査し、掌握する。選んだ理由を話題にして、働くことの意義を考えるきっかけとする。
- ② 展開では、人権教育を視点にした進路指導の学習内容として取り入れやすい資料を提示する。働くことの喜びを知っていく主人公の心の変容を、補助発問の工夫などをしながら学び取るようにさせ、共感させていく。
- ③ 終末では、誠実に仕事をしている人々の様子に触れさせ、自分も将来、社会や公共のために役立つようとする意欲をはぐくむようにする。

(4) 本時の学習

<ねらい>
 ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕・貢献する喜びの価値に気付き、公共のために役立とうとする気持ちを育てる。
 ・職業にはそれぞれの役割があり、人々の生活を支え、尊いものであることに気付く。

<展開>

	学 習 活 動	人権教育にかかわる留意点◎
導 入	1 将来、自分がしてみたい仕事のアンケート結果を見て考える。 「将来、どんな仕事をしてみたいと思っていますか。それはどうしてですか。」 ・かっこいいから。 ・お金がもうかりそう。 ・家の人もやっているから。 ・楽しそうだから。	◎アンケート結果に基づき、将来の夢や希望を考える時間をつくる。仕事を選ぶ理由について一つ一つ大切に扱う。
展 開	2 (資料)を読んで話し合う。 「ぼくはどんな気持ちで掃除をしていたのでしょうか。」 ・使い方がひどいし、いやだなあ。 ・動物のフンそうじはまだいいけれど、便所のそうじはやりたくない。 ・動物の世話をもっとしたいよ。 「おばあさんの『ありがたい。ありがたい。』という言葉聞いて、ぼくはどんな気持ちになりましたか。」 ・やってよかった。 ・ぼくが仕事をしたことで、喜んでくれる人がいるんだなあ。 ・きれいなトイレは、やっぱり気持ちがいいんだな。 「『とても気持ちよかった。』と書いてある手紙を読んで、どんな気持ちになりましたか。」 ・工夫したかいがあった。 ・一生懸命やれば、使っている人も感謝してくれるんだなあ。 ・動物のフンそうじも便所のそうじも同じじゃないか。ようしもっとがんばるぞ！	◎担当した仕事に対する主人公の「つらさ」や「不満」に共感できるようにする。 ◎主人公の、おばあさんの感謝の言葉に対する素直な喜びと、仕事の成果が認められたという満足感を確認する。 ◎仕事に対する誇りや役割を感じるようになっていく主人公の変容に気付かせる。(望ましい勤労観・職業観の育成)
ま と め	3 自分の生活を振り返り、働く喜びを感じた経験や今後のことを考える。 「学校の委員会や当番、係活動、地域や家庭での活動を通して、やってよかったと思ったことはありますか。」 ・お風呂のそうじをして、家族に喜ばれた。 ・夏休みも飼育委員会の活動をして、鳥の世話ができた。 ・町のごみひろいをした。きれいになってうれしかった。 4 働いている人の写真を見て、どの仕事も大切であり、役割があることを知る。 (写真)	◎がんばっていることを大いに褒め称える。 ◎仕事はどの仕事も人々の生活にはなくてはならない尊いものであり、人はやりがいや誇りをもって仕事をしていることを伝える。 ◎児童の夢を大切に、自己実現に向けて努力するよう、励ましの言葉をかけるようにする。

<評価>

- ・社会のために奉仕・貢献し、公共のために役立とうとする気持ちをもつことができたか。
- ・それぞれの職業には社会を支える役割や尊さがあることに気付くことができたか。

児童の変容

< やってみたい仕事を考えた主な理由 >

- ①自分が好きなことをやればいい。
- ②遊園地が大好きだから、そこで働きたい。
- ③バラエティー番組のアナウンサーがおもしろそうだ。
- ④テレビドラマの弁護士に憧れて。
- ⑤やってみたいものを選びたい。
- ⑥サッカーが好きで、プロになってお金がもらえるから。

< 授業後の感想 >

- ①どんなことでも人のために行動しよう。
 - ②ただ働くだけでなく、みんなを楽しませたい。
 - ③人のために一生懸命つくしたい。
 - ④どんな仕事もすごく大事な仕事だ。
 - ⑤みんなの役に立つ仕事をやったほうがいい。
 - ⑥いやだなと思っていた仕事でも、一生懸命やればやりがいがあって、楽しくなることに気付いた。
- (6名を抽出し、変容を調べた。)

(5) 資料

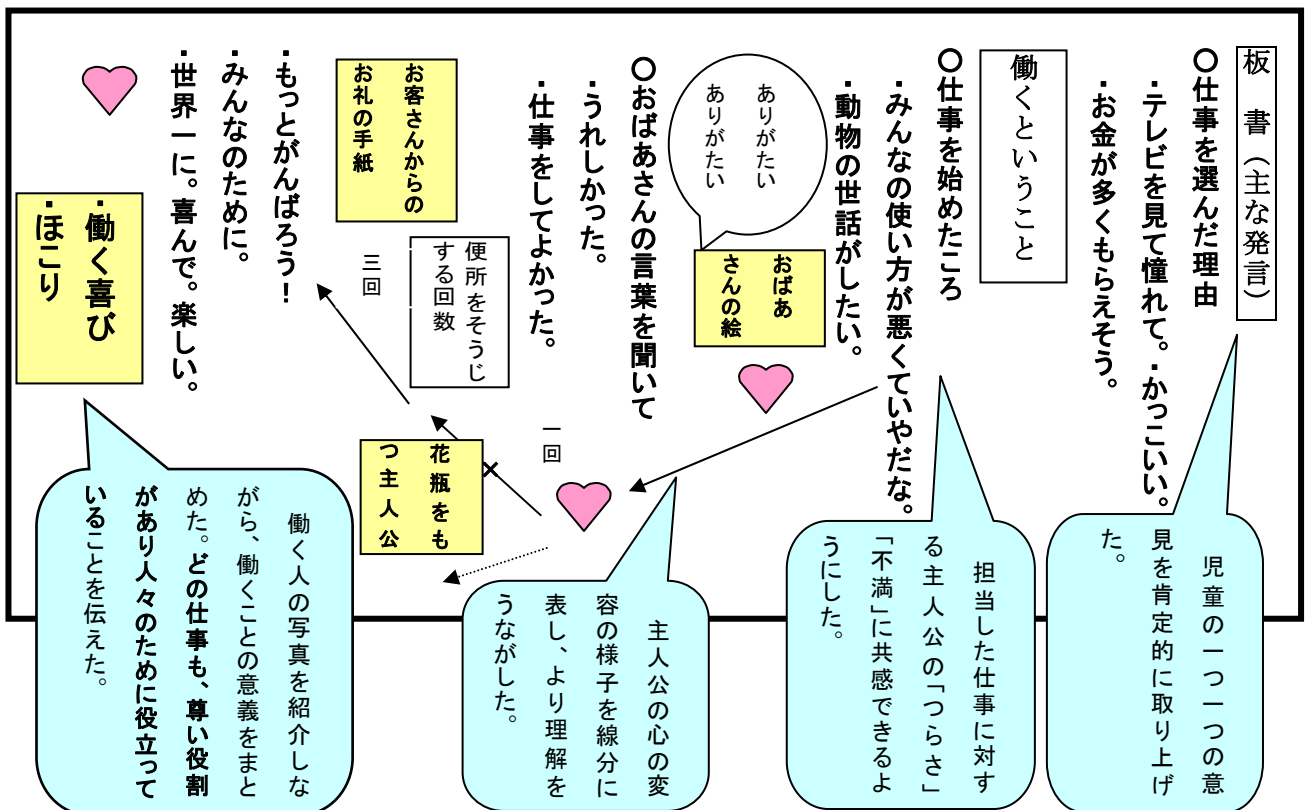
○あらすじ

- ・西山さん（現在、東武動物公園の名誉園長）は、社会人になった16歳のころ、上野動物園で便所をそうじする担当となった。
- ・「動物の世話ができると思っていたのに。」と不満を感じながら仕事をしていたある日、おばあさんの「とてもきれいになっていて、使っていて本当に気持ちがいい。ありがたい。ありがたい。」という言葉を引きかけに、一生懸命そうじをしてみようと思いを決める。動物園の仕事は様々あって、どれも大切だということに気付く。
- ・「ありがたい。ありがたい。」という言葉は、生涯忘れられないものとなり、やればできるという自信や働く喜びを教えてくれた。

○出典 西山登志雄作「ぼくの仕事は便所そうじ」（『6年生の道徳』文溪堂刊）

（西山登志雄作『ボクの先生はカバだった』ポプラ社刊 1984年所収）

○授業の記録（板書例）



3 指導事例 2

総合的な学習の時間 小学校第6学年	自己を深く見つめること、地域の専門家の生き方に学ぶこと、友達との伝え合いを重ねることを通して、将来への夢を大きくふくらませ、希望に満ちた自己の姿を鮮やかに描く学習。
----------------------	--

(1) 単元名 「自分を見つめて」

(2) 単元の目標及び人権教育のねらい

- ・今の自分を見つめながら、将来の自分の姿をイメージして、課題を設定する。
- ・課題解決に向けて見通しをもち、計画に沿って、主体的に粘り強く取り組む。
- ・課題の追究を通して発見したことを、ふさわしい手法でまとめ、発信し、共有する。
- ・学習を通して自分を見つめ直し、現在や将来の生活に生かそうとする。

人権教育・進路指導との関連	
キーワード	①自分発見 (個性・能力の発揮) ②友達に拍手 (自他の尊重) ③夢実現プロジェクト (自己実現)
①人にはそれぞれ個性があることに気付かせることで、自分のよさを見いだし、自己を肯定的に理解できるようにする。 ②友達を認め、互いに高め合う関係づくりに取り組ませる。また、他者とのかかわりの中で自分についての考えを深め、よりよく生きようとする心情をはぐくむ。 ③仕事で自分の夢をかなえた人に出会い、仕事に対する思いや生き方に触れる機会をもたせる。人々の生き方に学ぶ中で、自分の将来の夢を描き、自らよりよい社会づくりに参加していこうとする意欲をはぐくむ。	

(3) 指導計画

1	学習の見通しをもつ。	学年一斉
2	情報交換会①に向けて情報を集める。	学年一斉
3	情報交換会①「ちょっと気になる職業報告会」をする。	各学級
4	課題を決定する。追究計画を立てる	各学級
5・6	情報交換会②「〇〇になりたいんだ！夢プラン報告会」をする。	分野別グループ
7・8	地域の専門家の方々の話を聞く。	希望別グループ
9	今の自分と将来になりたい自分をつなぐかけはしを考える。	各学級
10・11	情報交換会③「自分発見！報告会」をする。	分野別グループ
12	「夢ショップ」に向けて準備をする。	各学級
13・14 15・16	「夢ショップ」を開く。	分野別グループ 希望別グループ

段階に応じて情報交換会を行い、だれもが、未来の自分の姿を確実に描けるようにする

〇年後。〇〇の仕事をしている〇歳の私がゲストティーチャーとして今までの道のりや努力、仕事についての生きがい語る。

<単元の評価規準>

課題設定能力	興味・関心のある職業を、継続的に幅広く取材し、自分の課題を見いだす。
学び方・考え方	周りの人とのかかわりの中から自分にはなかった考え、いろいろな価値観を見いだす。
問題を解決する能力	比較したり、関連付けたりして、自分の考えを調整する。
主体的・創造的な態度	追究の計画に沿って、解決に向けて粘り強く取り組む。
自己の生き方	他とのかかわりの中で自分自身を見つめ直し、よりよく生きようとする。

(4) 指導内容

◎人権教育にかかわる留意点・学習活動
☆指導の工夫

1・2時 今の自分を見つめて、将来の自分の姿を思い描く。

学習の見直しをもつ。

- ・ビデオ「シャッターチャンス」の視聴後、自分の好きなこと(得意なもの・興味あるもの)や行事・日常生活から自分自身を見つめ直す。

情報交換会①に向けた情報収集について知る。

- ・自分の好きなこと(得意なもの、興味あるもの)や「13歳のハローワーク」から興味を覚えた職業を挙げ、調べる方法を考える。

◎将来の夢を描きやすいように助言し、学習に興味をもてるようにする。

◎自分の得意なことや適性に着目して職業を選べるよう助言する。

☆ビデオ「シャッターチャンス」

(人権教育資料センター所蔵・平成14年度東京都教育委員会制作) 提示。

☆書籍「13歳のハローワーク」

(村上龍 幻冬舎) 紹介、職業一覧表配布。

追究

◎この時点で、夢をもてないことで自信がもてなくなったり、焦りを感じさせたりしないように、少しでも興味を感じた職業についてはいくつでも調べてよいことや一つに絞る必要のないこと等を説明し、安心させる。

ぼくは、サッカーが大好きで、サッカーをやっているだけで幸せな気分になれる。だから、将来の子どもたちにも、自分のように幸せな子を増やしたい。子どもたちがのびのびとボールをける芝生のグラウンドをたくさん作る人になりたい。

3時 友達と調べたことを発表し合う。

情報交換会①

「ちょっと気になる職業報告会」をする。

(写真)

4時 将来の自分の姿をイメージしながら課題を設定する。

課題を決定し、追究計画を立てる。

- ・自分の好きなこと等から、将来ついてみたい職業を選び、課題を立てる。
- ・追究方法や伝え方を考える。
 - *本、パソコンなどで調べる。
 - *インタビューする。
 - *体験する。

電車の運転士・車掌になりたい。

①運転士の仕事やスケジュール

②車掌の仕事

③運転士になるために必要なことについて〇〇駅の方にインタビューしてまとめる。

聞いた話や撮った写真をまとめて、クイズ形式の劇にして発表する。

追究

5・6時 課題の追究を通して発見したことをふさわしい手法でまとめ、伝える。

情報交換会②

「〇〇になりたいんだ！夢プラン報告会」

をする。

- ・同じ分野の職業を選んだ友達と調べたことを発表し合う。
- ・地域の専門家の方々への質問事項を考える。

☆分野別グループで行う。

- A 自然と科学に関する職業
- B アートと表現に関する職業
- C スポーツと遊びに関する職業
- D 旅と外国に関する職業
- E 生活と社会に関する職業

(写真)

◎互いの情報に興味や関心をもって聞くことができるように、同じ職業や類似の職業を選択した児童同士の小集団を編成する。

7・8時 自分の夢をかなえた地域の専門家に出会い、仕事に対する思いや生き方にふれる。人とのかかわりの中で自分についての考えを深め、よりよく生きようとする気持ちをもつ。

地域の専門家の方々の話を聞く。

- ・ゲストティーチャーの話を自分の夢と重ね合わせながら聞き、どう生きていくか考え、まとめる。

◎話を聞く観点を考えさせ、目的をもって聞けるようにする。

- *夢を実現させようとした強い意志
- *仕事につくまでの歩み
- *仕事に対する思い
- *生き方

ぼくは今、野球をやっていて、いつも試合に出られなくて、やめようと思っていたけど今日の話聞いて、ぼくは野球を続けようと思いました。なぜ、試合に出られないかは、自分の努力が足りないからだと思います。これからつらいこともあると思うけど、今日の話思い出して、これからも努力していきたいと思いました。

(写真)

9時 今の自分と、将来なりたい自分をつなぐには、どうしたらよいかを考える。

今の自分と、将来なりたい自分をつなぐかけはしを多面的に考える。

整理した視点

- *心を耕す
- *技を磨く
- *体を鍛える

☆児童の意欲をはぐくむために、初めから視点を提示するのではなく、児童の挙げたかけはしをグループ分けして「心・技・体」の視点を明らかにする。

今の自分をなりたい自分・・・13年後、人々の安全を守るためにがんばってだれよりもたよりになる優しい警察官になっている・・・につなげるかけはしは、**心**：感謝の心や素直な心をもつ。失敗してもくじけない強い心をもつ。**技**：たくさん勉強して警察学校に進む・運転免許証を取る。**体**：柔道や合気道を習い、体を鍛える、好き嫌いをしない。と考えた。

10・11時 今の自分と将来の自分をつなぐかけはしを伝え合うことを通して、新たな視点に気付いたり、再確認したりする。

情報交換会③

「自分発見！報告会」をする。
・今の自分と、将来なりたい自分をつなぐかけはしを伝え合い、自分の考えを深め、「夢ショップ」の発表シナリオを作る。

シナリオ作り

- 1 何年後(何歳)のことか
 - 2 社会や世の中の変化について
 - 3 「〇〇になりたいんだ！夢プラン報告会」で伝えたこと
 - 4 ゲストティーチャーから学んだこと
 - 5 なりたい自分に向けて努力したこと
- 心(誰に喜ばれているかなど、社会の一員としての自覚も含めて心を豊かにしたこと)
技(技術や資格など、自分を磨いたこと)
体(健康や上達のために体を鍛えたこと)

12時 「夢ショップ」に向けて準備する。

- ・「自分は何のために働くのか」「その仕事をするとなだれが喜んでくれるのか」の視点に基づいてシナリオを推こうし、発表の準備や工夫をする。

◎将来なりたい自分の姿は、社会の一員としてどのように役に立っているかを伝えられるように発表シナリオのシートを工夫し、推こうするよう助言する。

はたららく

はたにいろん

【板書】

「はたららく」とは、「はた」端の人、そばにいる人、つまり自分以外の人を「らく」にさせるといことです。

働くことと身近な問題をテーマとして導入する工夫と。と導き入れ

・・・そして過去の13年前とは違って、医療はかなり進歩しました。ほとんどの病気も治るようになりました。しかし最近では、新しく強力な病原菌も見つかり、いつまでこのいちごっこが続くのかと、考えさせられます。

最後に私は、社会の一員としての自覚をもつことが大切だと思います。世界では、うえに苦しむ人々や、病気を治したくてもお金がないから治せないという人々がたくさんいます。私は、一人でも多くの人を救えるように日本社会の一員だけではなく、世界の一員としての自覚をもつことが大切だと思います。

13・14時 《分野別グループ》

15・16時 《希望別グループ》

夢ショップでこれからの生き方を学び合う。

◎「〇〇になりたい」という憧れを語るのではなく、〇年後夢をかなえた自分になりきって、今までの道のりを語る場を設定し、夢や希望の実現に向けて意欲を高めるようにする。

「夢ショップ」を開く。

- ・今までの学習を振り返り、将来になりたい自分の姿を思い描き、学年の友達に発表する。
- ・友達との考えの伝え合いを通して、互いにこれからの生き方について考える。

私は今、27才でキャラクターデザインなどを得意とするグラフィックデザイナーになりました。この道を歩いてくるためには、これまでに様々な努力がありました。

小学校6年生のころ、総合的な学習の時間「自分を見つめて」で、ゲストティーチャーからお話をうかがう時間がありました。その時、私はお金をもうけることより大切なことを学びました。それは人とコミュニケーションをとり、信頼をもらうことです。

私が大切だと思うことは、人とのかかわりです。人の心を動かす作品を作るには人の意見が必要だし、印刷業者などの人たちの協力も必要だからです。小学生のころ何度も聞いた、「一人だけでは何もできない」という言葉を大切にしてきました。

私は今、環境問題をなくすために地球に優しい製品（リサイクルされた製品）や地球温暖化などの防止を呼びかけるキャラクターを作っています。

今、自分にできることが何かのためになるならやりがいを感じられて、何よりうれしいです。この新鮮な気持ちをたくさんの人に知ってもらいたいと感じています。これからも何かのために努力をし、一つ一つ作品を作り上げていきたいです。

このデザイナーという自分で選んだ長く険しい道を風や雨のような苦しい逆境にたえ、人とのかかわりをつえにして、一步一步進み、自分のためにもがんばっていきたいです。

* 児童は、想像力と創造力を駆使して、未来の自分の姿を精一杯に描き、発表した。

発表に当たっては、ポスターやプレゼンテーションを準備したり、実際にドラムを実演したりするなど工夫にあふれていた。発表を聞いている児童は、様々な職業があること、どんな職業にもそれなりに苦労があり、自分の夢を描き続けば、きっとその夢が達成できることを学んだ。

学習を振り返って

将来の自分になりきって語る「夢ショップ」

(写真)

(写真)

○いろいろな夢があるんだなと驚いた。それにみんなの夢がかなえられる社会をつくっていかないといけないんだと思った。

○人とのかかわりが自分を成長させるんだと思いました。

○夢をあきらめてはいけないということが分かった。

○ぼくは、保育士になりたい気持ちが強くなりました。子どもを預かるという責任ある仕事は、きっとやりがいがあると思うようになったからです。

○責任が重大だからその仕事が「いやだ」と思うのではなく、それを乗り越えてこそ「すごい」ということを学びました。

【保護者の声より】

多少自分の適性や、世の中の仕組みが分かりかけ、中学を目前とした小学生のこの時期に、抜群のタイミングでこの総合的な学習の時間の授業をやってくださったことは、意義あるものと信じています。

小学生の発想ならではの、バラエティにとんだ職種がたくさんあって、興味深かったです。

今、この小学生から中学生になる人生の最初の岐路で、これだけ声に出して、みんなの

前で発表し宣言し、聞いてもらえ、共感してもらった記憶は、必ずこの子たちの心に深く根ざし、今後の人生に何かしらの種をまいたと信じてやみません。

この授業のことは、必ず子どもたちの心に生涯残ると思います。その夢をかなえても、その夢がかなわなくても。

自分を見つめることが、いかに大切かというところに、きっと気付くことでしょう。

* この授業への保護者の反響は大きく、発表する児童の姿を通して、成長の手応えあるいは可能性を感じた方が多かったようである。卒業を前にして、これから理想と現実とのギャップに立ち向かうこともあるに違いないが、改めて、学校も家庭もともに子どもたちの成長を見守っていこうとの共通の認識に立つ機会ともなった。

児童の変容

児童 A

自分に自信がもてず、自己否定的な児童が、自分に問いかける学習を重ねることで、自分のよさに気付き、少しずつ自己肯定できるようになった。

「いてもいなくても分からない、影の薄い存在。人への影響はゼロ」とワークシートに書いたA児の場合



自己への問いかけを重ねることで、「自分は、文章を書くのが好きなのかもしれない」「文章を書くと、何か広がっていく」ことに気付き、「小説家になりたい」と思えるようになった。

課題を追究する中で目の輝きを変えていき、報告会では、自信をもって将来の姿を語ったり、挙手をして友達へ質問や感想を述べたりする姿が見られた。

児童 B

将来に夢を抱けず、何になりたいか意欲の弱い児童が、人とのかかわりを通して未来の自分の姿を描けるようになった。

すべてにやる気がなく、将来は「何もしたくない。弟に食べさせてもらうからいい。」と言っていたB児の場合



学習に関心を示さなかったB児が、「Bさんは空手が得意でいいね。」の言葉や友達の報告を聞く中で、「空手の指導員」に着目した。

学習を続けるうち、将来の夢を揺るぎないものにした児童の「夢ショップ」に向けた準備はだれよりも積極的で、熱心であった。

そのことを友達や担任から大いに賞賛され、学習の振り返りでは、

「夢をもつって、なんかパワーが湧いてくる。早く大人になりたい。」と語った。

授業のポイント

段階を追った3度の報告会

専門家の話

ロールプレイングで語る「夢ショップ」

* 成長段階に応じた「自分を見つめる」機会を意図的に設定することで、人とのかかわりの大切さに気付かせ、「自分は今何をすべきか」を考えさせることにつながる。(pp.28-29 年間指導計画参照)

小学校 2年生(8歳):生活科「大きくなったわたしをたしかめよう」「わたしものがたり」作り

4年生(10歳):学級活動「10才を祝おう」感謝・希望の表出、社会とのつながり

6年生(12歳):総合的な学習の時間「自分を見つめて」夢の追究、社会の一員としての自覚

中学校 2年生(14歳):総合的な学習の時間「職場体験を通して自分の生き方を見つめよう」

進路や自分自身を考える、社会の一員としての認識

4 指導事例³

総合的な学習の時間 中学校第2学年	中学校の「職場体験」は実体験を伴う学習であるため、人権課題にかかわる問題を身近に意識させやすい。生徒の感想や意見を基に人権課題にかかわる問題に気付かせ、人権感覚を磨く学習のきっかけとして「社会における人との望ましいかかわり方」を考えさせる学習とする。
----------------------	---

(1) 単元名 「職場体験」

(2) 単元の目標及び人権教育のねらい

- ・労働の喜びや苦勞を知るとともに、社会生活のマナーや人とのかかわり方を学ぶ。
- ・体験活動を基に情報を整理し、発表することで情報収集能力や情報発信能力を養う。
- ・人権課題にかかわる問題に気付かせ、考えを深める中で、人間として生きていくために大切なことは何かなど、より広い視野に立って自分を見つめさせる。

人権教育・進路指導との関連

- キーワード
- ①人との望ましいかかわり方
 - ②仕事への誇り
 - ③人権課題にかかわる問題への気付き

- ①体験活動を通じて、社会における周りの人との望ましいかかわり方について考えさせる。
- ②自分が希望した職種がどのようなものであるか体験することを通し、自己の新たな面を発見したり、適性について考えたりすることで、進路を見つめ直す機会とする。
- ③職場体験の感想等を取り上げ、身近な場面でも様々な人権課題にかかわる問題があることに気付かせ、理解を深めさせる。

・導入では「なぜ仕事をするのか」について投げかける。
(生徒の反応例)

- ☆「自分の力を発揮したい」
- ☆「周りの人に認めてもらいたい」
- ☆「人の役に立ちたい」

・「③人権課題にかかわる問題への気付き」は、生徒の体験を基にした感想等を取り上げ、教材として活用する。各学校の実態に応じた導入しやすい視点などを設定する。

(例)

- 社会生活や人間として大切だと思うような人とのかかわり方を考える。
- 人権課題にかかわる問題になると思うことを考える。

自己実現を図るために必要なことであり、人権教育と進路学習に共通したねらい

生徒の「おかしいな。変だな。なぜだろう。」という感覚を大切にする

「人権が大切にされていない問題」について、生徒の実態に応じて分かりやすい表現を工夫する。

<単元の評価規準>

- ・職場体験を通して、社会生活に必要なマナーを身に付ける。
- ・学習の過程で得た情報を活用・整理するとともに、情報発信能力を身に付ける。
- ・職場体験を通して人権課題へ気付き、考えを深める中で、広い視野に立って自分を見つめる。

<評価場面の例>

- ・職場体験ノート
- ・アンケート
- ・個人で作成する職場体験新聞
- ・学級内発表
- ・学年発表会
- ・各事業所での様子の聞き取り

(3) 指導計画 (例)

月	時	学 習 内 容	
7	1	職場体験のガイダンス	◎学習の導入にあたり、「なぜ仕事をするのか」という問いを投げかけ、課題を考えさせる。
	2	マナー指導①電話のかけ方	
	3	事業所への手紙（自己PRカード）作成	
	4	マナー指導②訪問の仕方・あいさつ等	
夏期休業中		事業所訪問・あいさつ・ガイダンス ※感じたこと考えたことをノートに記録する。	◎人権課題にかかわる問題について、事後の学習に役立てるためのアンケートを含めて行う。
9	5～7	訪問先の職業に関する事前学習 ※ノートの内容を参考として必要なことを調べさせる。	
	8	事前ガイダンス（職場体験 最終確認）	
	9	5日間の職場体験 ※必要な記録をとるように指示する。	
10	10・11	「人権課題」って何だろう	◎職場体験を通して学んだ内容に基づき、人とのよりよいかかわりについて考えさせることで、人権課題にかかわる問題への気づきを促す。
	12～14	訪問先の職業に関する事後学習 ※事業所ごとに行う。	◎ガイダンスの学習で考えた課題の解決が図れたかレポートにまとめる。
	15	職場体験 発表会	

(4) 本時の学習 (15 時間分の 10・11 時間目)

<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を通して考えた生徒の感想等を取り上げ、身近な場面でも様々な人権課題にかかわる問題があることに気付かせ、理解させる。 ・人権課題に関する調べ学習へのきっかけとする。 	<p>< 評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の体験を振り返り、身近な場面にも様々な人権課題にかかわる問題があることに気付いたか。 ・人権課題にかかわる問題について、話し合いや発表の中で、自分の考えを深めることができたか。 ・人権課題に関する調べ学習のきっかけとなったか。
--	--

	学 習 活 動	人権教育にかかわる留意点◎
導 入	1 本時の内容について説明を聞く。 ・職場体験のアンケート結果表を見る。	◎職場体験の感想から考えを深めることを知らせる。
展 開	2 「人権」や「人権課題」について知る。 ・人権課題にかかわる問題を見て、偏見や差別意識について考える。	◎「人権」という言葉について尋ねる。 ◎人権課題にかかわる問題の例を示し、偏見や差別意識について説明する。 (社会の一員としての自覚の育成)
①	3 アンケート結果表を見ながら考える。 (個人で) ※ワークシート①使用 ・人権課題に関連すると思うことについて、アンケート結果表にチェックする。 ・チェックしたものをワークシートに記入する。 ・普段の生活で思い当たる事があれば記入する。	◎職場体験やアンケート結果表をきっかけとして、生徒自身が気付かなかった人権課題にかかわる問題について考えさせ、記入させる。

<p>展 開 ②</p>	<p>(グループごとに) ※ワークシート②使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①を基に、自分の感じたことや考えたことを班の中で述べる。 ・人権課題にかかわる問題について、意見を出し合い、自分たちはこれからどのように実践すればよいかを考え、まとめる。 ・まとめから全体に発表するものを選ぶ。 <p>(全体で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容について発表し合う。 ・他のグループの発表内容を聞き、さらに気付いたり考えを深めたりする。 ・考えや感想を記入する。 <p>※ワークシート①使用</p>	<p>◎人権課題にかかわる問題についての考えを発表し合うことで、より身近な人権課題に気付いたり、考えを深めたりしているか観察する。</p> <p>◎発表後に必要に応じて補足説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(例)「事業所の方々はみなさんを共に働く一員として、温かく接してくださいました。それは、みなさんの人権が大切にされていたということなのです。」</p> </div>
<p>ま と め</p>	<p>4 本時で話し合ったことの他にも、様々な課題があることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題にかかわる問題の資料を読む。 ・人権課題にかかわる問題についての視点をもった生活について考える。 ・本時の内容を職場体験のまとめや発表に生かすようにする。 	<p>◎その他の例について資料等を活用して説明する。</p> <p>◎普段の生活の中で、自分に偏見や差別意識がないか、周りの人とのかかわり方について考えさせる。</p> <p>◎人権課題にかかわる問題についての内容を今後のまとめや発表等に生かし、学習に深みをもたせるきっかけとする。</p>

(5) 資料 実際の授業で活用したワークシート等

資料1 **職場体験に関するアンケート**

5日間の職場体験はどうだったでしょうか。学校ではできない体験をたくさんしたことでしょう。以下の項目に皆さんの先輩の意見の例をのせましたので、それを参考に自分の意見を書きましょう。

① 感じたこと

(例)・職員の人は疲れることでも黙々と仕事をこなしていてすごいなと思った。

② うれしかったこと

(例)・お客様に「ありがとう」と言ってもらえてすごうれしかった。

③ 困ったこと

(例)・子ども同士で遊んでいるときに、一人にいる子どもがいてどうしてあげたらいいのか困った。

④ おかしいな(変だな)と思ったこと

(例)・お店に障害のある人が来て、利用するのが大変そうだったので、利用しやすくする方法はないのかなと感じた。

※例示の仕方については、生徒の実態等に応じて工夫する。

資料 2 アンケート結果表			
感じたこと	うれしかったこと	困ったこと	気付いたこと
どんなことにもすぐに対応ができてすごいと思った。	お客様にありがとうと言われた。	お客様に質問されたとき。	スーパーでは、女の子がほとんどパートだったこと。
障害のある人ない人、関係なく、とてもまい対応をしていてすごいと思った。	お客様に「がんばって」と言ってもらえてすごうれしかった。	お店に来た人にうまく説明できなかったこと。	お店に障害のある人が来て、大変そうだったので、利用しやすくする方法はないのかなと感じた。
小さい子と接するときは言葉だけじゃなくて表情や動作も大切だという事を改めて感じました。	短い期間でも、子どもたちとうちとけられて「遊ぼう」とてさそわれたことです。	子どもたちがけんかしたとき、どう止めてよいか分からなくて困りました。	職場にほとんど男の人がいなかったこと。
高齢者の方と話をするとき、丁寧な言葉をつかったり、色々工夫するのは、大変だなあと思った。	手伝いなどして、「ありがとう」と言われたこと。	話すことができない人もいて、何を思っているのか、何をしたいか分からなかったとき。	

資料 3 ワークシート①									
<p>人権が大切にされていないと感じること</p> <p>1 アンケート結果から「人権が大切にされていない問題」と関係しそうだと思うものをチェックしてみましょう。 ※アンケートに直接印をつけよう（○で囲む）</p> <p>2 アンケート結果を参考として、チェックした例が直接「人権が大切にされていない問題」である場合はそのまま抜き出してみましょう。また、チェックしたところが、（もし〇〇だったら「人権が大切にされていない問題」になるな）と思うことをイメージして書いてみましょう。 例：この職場では〇〇だったけど、もしも△△だったら「人権が大切にされていない問題」だと思う。</p> <table border="1"> <tr> <td>「 」に かかわる問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「 」に かかわる問題</td> <td></td> </tr> </table> <p>3 ①から③のどれかひとつについて記入してみましょう。 ①「人権が大切にされていない問題」として、アンケートには書かなかったけれども、関係すると思うこと ②普段自分が生活する中で（人権が大切にされていない）と感じること ③その他にも（これは「人権が大切にされていない問題」ではないのかな）と思うこと （新聞やニュースなどからでもよいです。）</p> <table border="1"> <tr> <td>「 」に かかわる問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「 」に かかわる問題</td> <td></td> </tr> </table> <p>4 「人権が大切にされていない問題」について他のグループの発表を聞いて考えたこと、または今までこう考えていたが、これからこうしたいと思ったことなどを記入して下さい。</p> <p>()</p> <p>5 授業全体を通して感じたこと、考えたことなどを記入して下さい。</p> <p>()</p> <p>< 生徒の記述から ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児院で赤ちゃんが泣いたとき、もしもそのまま放っておいたら「人権が大切にされていない問題」だと思う。 ・ 高齢者福祉施設では、話すことができない人もいて、何を思っているのか何を考えているのか分からないということで、分からないから無視をしたりすると人権が大切にされていない問題だと思う。 ・ 女の子はパートに多かったとあるけど、女の子だからという理由で、正社員にしなかったとしたら問題だと思う。 ・ 障害のない人だけが利用しやすく、障害のある人が利用しにくいのは、人権を大切にしていないと思う。 		「 」に かかわる問題		「 」に かかわる問題		「 」に かかわる問題		「 」に かかわる問題	
「 」に かかわる問題									
「 」に かかわる問題									
「 」に かかわる問題									
「 」に かかわる問題									

資料 4

ワークシート②

ワークシート①を基に、グループで発表し合ってみましょう。

- 1 ワークシート①の2について、グループの中で一人ひとつずつ意見を発表してください。
※一周したらふたつめの発表をしてください。(時間になったら知らせます)

氏名	「人権が大切にされていない問題」を1つ記入する	発表内容を簡単にメモする
	「 」 にかかわる問題	
	「 」 にかかわる問題	

- 2 ワークシート①の3について、グループの中で一人ひとつずつ意見を発表してください。
※一周したらふたつめの発表をしてください。

氏名	「人権が大切にされていない問題」を1つ記入する	発表内容を簡単にメモする
	「 」 にかかわる問題	
	「 」 にかかわる問題	

- 3 発表した中でこれはみんなに知らせた方がよいと思うものをひとつ選び、代表の人が発表しましょう。

資料 5

＜グループの発表を聞いて、または授業全体についての生徒の感想から＞

- ・ 人権問題というと、「男女差別」だけかと思っていたけど、高齢者や障害者の人にかかわる問題もあるんだなと思いました。
- ・ 身近なことで少し考えれば、人権が大切にされていることと、いないことがあることが分かりました。
- ・ ちょっとしたことでも、人権問題なのだということが分かりました。その分、人に接する態度や心構えに気を付けなければいけないと思いました。
- ・ 「こういう考え方(取り方)もあるんだ」と思いました。また、人と接するときに人権のことを理解して接していきたいと思いました。
- ・ 人権はだれもがみんな平等にもっているのが当たり前だと思っていました。でも、本当に平等だとは言いえないこともあると感じました。

＜留意事項＞ 学級活動における人権教育の視点を明確にした進路指導の工夫 (第3学年)

中学校学習指導要領特別活動には、内容 A 学級活動 (3)「学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」(オ)「望ましい職業観・勤労観の形成」が示されている。「人は職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮している」ことへの理解から、人権教育プログラムにある高等学校の実践事例等を参考に、「公正な採用選考について」考えさせる課題学習を設定することができる。

- ・ 社会科公民的分野での人権課題「同和問題」等についての学習を振り返り、就職における差別の問題を確認する。
- ・ 資料「ハローワーク(公共職業安定所)における求人事業所への指導の趣旨」から、求人事業所が、作文を課す場合には、なぜ「私の生い立ち」「私の家庭」などの題材を書かせてはならないのか。求人事業所は、なぜ「身元調査」を絶対に行ってはならないのか。
- ・ 資料「応募書類(職業相談票[乙])」から、「保護者欄」が削除されたことが、なぜ人権上の一層の配慮になるのか。

などのことを考えさせたり、意見の交換をしたりする。

このような学習の中で、就職にかかわる差別の問題を人権課題「同和問題」等との関連でとらえさせ、「本人の能力と適性」に基づいた公正な採用選考が行われることの大切さを理解するとともに、職業を通じての自己実現や差別の解消を図る力を身に付けさせることができる。

(参考資料)

- ・ 人権教育プログラム(平成15年3月)p.57
「高等学校・特別活動 指導事例(第1学年)『身近な差別に気づき、人権意識を高めるホームルーム活動』」
- ・ 人権教育プログラム(平成16年3月)p.50
「高等学校・公民科(政治・経済) 指導事例(第3学年)『平等な社会をめざして』」
- ・ 人権教育プログラム(平成17年3月)p.126 「進路指導関係資料」
- ・ ビデオ「シャッターチャンス」(平成14年度東京都教育委員会製作) など

IV まとめ

1 調査結果より

人権教育の視点を明確にした進路指導の工夫に当たっては、指導事例¹から³でも示したとおり、「自己の生き方を考える学習」や「偏見や差別意識の解消」、「人権課題への理解」等の学習内容を取り上げることが重要である。これらを意図的・計画的に指導していくことが、これからの進路指導の内容を充実させることにつながる。

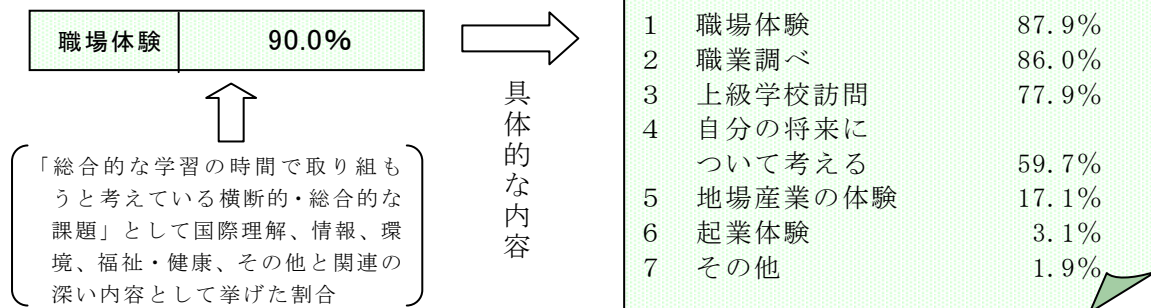
現在、各学校で行われている進路指導の実施状況を示す資料として、東京都教育委員会が毎年実施している「教育課程の編成・実施状況調査」（公立幼稚園・小学校・中学校）がある。この中で、進路指導及び職場体験の状況を示すものとして、中学校に関する二つの調査結果を掲載する。

(1) 「進路指導」の内容として特に重視していること *複数回答あり

	特に重視した内容	選択した割合 (%)	人権教育の3つの視点との関連 (注)
1	主体的な進路選択能力を育てる指導	81.6	①
2	職場体験活動を取り入れた指導	80.1	② ③
3	自らの生き方を考えさせる指導	75.7	① ③
4	3年間を見通した計画的、組織的な指導	73.4	① ② ③
5	望ましい勤労観・職業観を育てる指導	62.5	③
6	生徒の主体的な進路決定を援助する指導	52.1	①
7	自己理解を図る指導	49.8	① ②
8	進路相談、ガイダンスの機能を生かした指導	46.0	① ② ③
9	生徒の個性や能力、よさなどを生かす指導	34.4	①
10	保護者の理解と協力を取り入れた指導	28.6	
11	地域社会及び関係諸機関と連携した指導	27.2	

(注) 3つの視点：①個性・能力の伸長 ②望ましい人間関係の構築 ③社会の一員としての自覚の育成のうち、指導内容として重点化できると考えられるものを参考として示した。

(2) 職場体験の内容

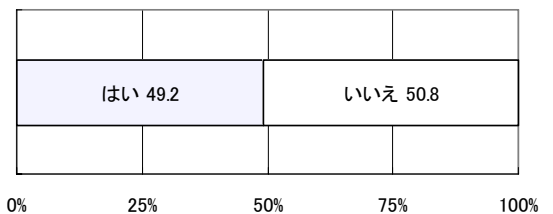


東京都内の公立小・中学校教員（校長・副校長を除く）125名に対し聞き取り調査を行い、「人権教育と関連させた進路指導の実施」の有無について聞いた。その結果、右図に示すように「意識している」と回答した教員は約半数に留まった。

進路指導を行う上で重要な人権教育の視点については、各学校に対し、指導計画の作成例や指導の工夫を示しながら、引き続き具体的に提案する必要があると考える。

図 人権教育と関連させた進路指導について

「進路指導を行う際、人権教育の内容やねらいを意識して実施していますか。」



2 提案事項

本研究を通して提案した内容の要点は、以下のとおりである。

(1) 人権教育の視点を明確にして進路指導の内容を見直す。

進路指導を通して児童・生徒に身に付けさせたい力と人権教育を通して育てたい力が共通する部分が多いことを踏まえ、両者の関連に基づき、自校の進路指導の内容の見直しを行う。

【考え方】
教職員間の共通理解を図るとともに、人権教育の視点を明確にした進路指導の計画づくりを行う。



【具体策】
・個性・能力の伸長
・望ましい人間関係の構築
・社会の一員としての自覚の育成
の3つの視点から各教科等の目標・内容を見直し、進路指導計画を立てる。

(2) 進路指導が生き方に関する指導であることを明確にし、指導内容を確認する。

児童・生徒の個性や能力を十分に生かし、自己実現が図れるような指導を実現するために、人権教育との関連を踏まえ、進路指導の充実を図る。

【考え方】
「ニート」や「社会的引きこもり」、夢や希望を描けない子どもの増加等の社会背景を踏まえ、学校教育における課題として取り組む。



【具体策】
校種や発達段階を踏まえ、進路指導を通して児童・生徒に育てたい力を明確にする。

(3) 進路指導に関する指導計画を作成する。

3つの視点を活用し、人権教育の視点を明確にした進路指導の機会や学習の場面を明確にする。その際、各教科、道徳（小学校・中学校）、特別活動、総合的な学習の時間の指導の目標や内容等との関連を図る。

【考え方】
人権教育の全体計画を踏まえ、児童・生徒の実態に基づき自校の進路指導の内容を見直す。指導の機会や場面の具体化を図る。



【具体策】
進路指導の年間指導計画や学習指導計画を作成する。その際、本研究の指導事例や「人権教育プログラム（学校教育編）」に掲載されている実践事例を参考にする。

(4) 発達段階や指導内容の系統性に留意し、「自分を見つめる」学習を適切に設定する。

児童・生徒の発達段階を踏まえ、小学校段階から適切に、自分の生き方について考える学習場面を設定する。

【考え方】
各学年の年間の学習計画の中に、発達段階を踏まえて、「自分を見つめる」機会を設定する。



【具体策】
第2学年 生活科「大きくなったわたしをたしかめよう」
第4学年 学級活動「10才を祝おう」
第6学年 総合的な学習の時間「自分を見つめて」
などのように計画的に取り組む。

(5) 各教科等の目標や内容との関連を図りながら、効果的に指導を行う。

進路指導の内容の充実を図るために、各教科等の指導内容との関連を図りながら、ねらいを明確にして意図的・計画的な指導を行う。

【考え方】
指導案を作成するにあたって、各教科等の目標や内容を3つの視点から吟味し、進路指導の充実及び人権教育の推進を図る。



【具体策】
①各教科等の目標・内容と人権教育のねらいとの関連を図る。
②身近な人権課題にかかわる問題について考える具体的な学習の機会を設定する。

詳しくは、本報告書掲載の各指導事例を参照していただきたい。